文教大学女子短期大学部研究紀要44集，17－28，2000

栄養士に関する社会的役割の変化について（第3報）
── 栄養士・管理栄養士養成施設生の意識調査 ──

斎　藤　貴美子*　　井　上　節　子**

The Changing Social Role of the Nutritionist

Kimiko Saito　　Setsuko Inoue

はじめに

社会状況の変化に伴い栄養士を取り巻く状況も大きく変わりつつあり、その対応が問われている。本研究は、その状況を正しく把握し、社会的役割を十分果し得る栄養士養成の方策を得る目的で開始した。

これまでの成果をまとめると、第1報で栄養士に関する状況把握として職場での実情調査を実地し、その結果を報告[1)2)]した。それによると、近年栄養士業務は、職域によって特徴的変化があり、扱う種類と範囲が広がるとともに質も高くなり、総体的には、保健・医療・福祉領域において多様化・専門化する方向で変化している状況が把握でき、今後の研究の基礎資料を得た。これらは栄養士に関する社会的変化として、①食の多様化・個人化による問題点拡大、②少子化・高齢化社会による食の問題、③生活習慣病と慢性疾患・合併症の増加、④健康保健法に基づく[3)]サービス充実と医療の高度化、⑤地域保健法に基づく[4)]住民サービス充実、⑥老人保健法に基づく[5)]介護支援専門員としての業務範囲拡大、⑦国際化・情報化社会に対応した内容であることが確認できた。さらに2報[6)7)]では、栄養士養成施設生の意識調査の結果を報告した。栄養士の社会的役割の変化に伴って養成のあり方の再検討が求められているが、その教育成果をあげるには、養成を受ける側の実情把握をし対応させていく必要ありと考えたからである。具体的には、養成を受ける学生が、栄養士業務の変化を正しくとらえ、それに望む意識を持って入学しているか、また養成後の成果が進路にどう結びついていくのか把握するためである。この調査は、対象が2年制の栄養士課程生であったためか、養成による変化よりも入学時の意識がそのまま卒業時の就職動向へ結びつくなど、いくつかの知見を得た。

今回はさらに、調査対象を管理栄養士課程の学生へ広げ、養成制度[8)]の違う栄養士・管理栄養士課程間の学生において意識の違いがあるかを把握し、現状をふまえた栄養士教育の方向性と内容を探りたい。これらに関する文献[9)~13)]は古いものしかなく、研究の意義を確認した。また、考察資料として、栄養士問題に対応している関係当局の情報[14)~16)]も得て活用した。

＊ 健康栄養学科教授
＊＊ 健康栄養学科助教授

調査方法

1999年度卒業の2年制栄養士課程4施設の学生415名と管理栄養士課程3施設の学生290名に対し、1999年1月にアンケート調査を実施した。回収率は100.0％であった。入学時と卒業時における栄養士に対する意識変化の有無とその内容をとらえるため、同一対象に対し両時点の意識を調査した。その結果を両課程別に集計し、さらに複数項目間のクロス集計を行って考察した。

調査項目は入学時と卒業時の意識に分け以下の通りである。

1．入学時の意識　①志望動機　②栄養士に関する知識の入手先　③実在栄養士承知の有無　④栄養士業務に関する知識　⑤栄養士就職への意志　⑥就業希望期間

2．卒業時の意識　①栄養士への職業観　②就職動向の結果　③栄養士就職への意志変化の有無　④栄養士就職への意志変化の時期　⑤栄養士として就職しない理由

結果及び考察

1）　入学時の意識

1．志望理由

表1は、栄養士・管理栄養士課程へ入学した理由についての回答を集計した結果である。両課程を比較すると、回答率の最も高いのは共に栄養士の資格をとるためであるが、2位以下は内容がかなり入れ替わっている。

一方、回答率の差が大きいものとして、栄養士課程の方は、資格を取るため・調理が好きだからが12、将来の生活に役立つが7ポイント高く、管理栄養士課程の方は、将来管理栄養士になりたいが20、将来の仕事に役立つが9ポイント高い。

また、両課程の回答率が類似しているのは、健康と栄養について学びたい、食物全般にわたって勉強したい、スポーツと栄養について興味があったからで、得たい知識は共通に持っていたといえる。さらに、周囲からの影響として、家族や先生などから勧められたは管理栄養士課程の方が5ポイント高く、アドバイスする立場からは将来を見通して判断しているといえる。

以上の結果から、高校卒業時の進路選考にあたって、栄養士課程の学生は、現在自分が得たい技術と生活に役立てようと身近な現実としてとらえているが、管理栄養士課程の学生は、比較的将来までの長い期間の計画としてとらえている違いがあると推察する。

表1　志望の理由　(%)

	栄養士 n=415	管理栄養士 n=290
栄養士の資格を取るため	82.7	71.0
将来の生活に役立つと思ったから	50.1	43.4
健康と栄養について興味があったから	45.5	41.7
調理が好きだから	41.7	31.0
将来の仕事に役立つと思ったから	35.9	45.2
食物全般にわたって勉強したいから	33.7	33.1
将来、管理栄養士になりたいから	27.2	47.6
スポーツと栄養について興味があったから	15.7	12.1
家族や先生などから、勧められたから	10.8	15.9
受験科目が受けやすかったから	8.7	8.6
その他	1.9	4.8

複数回答，％＝nに対する比

2．栄養士についての知識の入手先

表2は、栄養士・管理栄養士に関する知識入手先を両課程別に集計した結果である。回答率の順位は、両課程とも同じである。本・雑誌からが約40%で最も高く、次いで入学案内とマスコミ・広報誌からが大多数である。回答率の違いは、入学案内は栄養士課程が、家族・先生からの勧めは管理栄養士課程の方が約5ポイント高く、他は差がない。また、ほとんど知らないで入学している学生が、両課程とも約10%いるのは予想外の結果である。学びたい専攻分野重視で両課程を選択したのか、さらに調査の必要がある。

3．実在の栄養士承知の有無

表3は、栄養士で働いている人を知っていたか、知っていた場合どこの栄養士かを集計した結果である。知っていたは53.7、46.3%で、栄養士課程が4.4ポイント高かった。また、残りの約半数が知らないままその課程を選んでいることがわかった。栄養士が実際に働いている姿も見ずに、広報誌のみで得ている情報は、表面的な浅いものではないかと推察される。

知っていた栄養士は、学校・病院が54～61%と両課程とも回答率が高く、2／3の入学者が知っていた職域である。両課程を比較して

表2　栄養士に関する知識の入手先　(%)

	栄養士 n=415	管理栄養士 n=290
本・雑誌から	41.0	41.4
入学案内で	31.1	26.6
家族から	23.4	26.9
先生から	16.1	21.4
先輩・友人から	12.5	10.3
ほとんど知らなかった	8.4	10.0
栄養士から	4.1	3.1
その他	4.3	5.5

複数回答，%＝nに対する比

表3　実在の栄養士承知の有無　(%)

	栄養士 n=415	管理栄養士 n=290
知っていた	53.7	46.3
どこの栄養士を	(n=223)	(n=142)
学校	61.4	59.2
病院	54.3	58.5
福祉施設	14.8	9.9
事業所	11.2	7.7
保健所	9.4	13.4
市町村	4.5	5.6
養成施設	1.3	3.5
その他	4.0	2.8

複数回答，%＝nに対する比

みると、学校・福祉施設・事業所は栄養士課程が、病院・保健所・市町村・養成施設は管理栄養士課程の方が高い。

栄養士の職域別就業割合を日本栄養士会会員数内訳[17]でみると、病院39.8％、福祉17.7％、地域活動17.3％、学校10.3％、行政6.3％、集団健康管理5.0％、研究教育3.6％である。また、栄養士・管理栄養士養成課程卒業生の職域別就職先を、全国栄養士養成施設協会の平成10年度就業実態調査[18]でみると、事業所36.3％、病院26.2％、福祉22.7％、その他7.8％、学校2.9％、官公署2.1％、教育養成1.8％、矯正0.2％である。これらの就業状況と今回の調査結果は、必ずしも一致していない。栄養士は高校生までの人たちが接する場に存在せず、身近な対象になっていないからと推察する。実在の栄養士承知の有無は、栄養士を理解する上で影響大であると思われるが、承知の回答率が低い結果は、入学後に自分に合わないという失望感を持つ学生がでてくる原因に関連していると思われる。適格者を得る対策として、栄養士の組織や養成施設が、栄養士についての広報にもっと努力の必要ありと考える。

4．予想していた業務内容

表4は、栄養士はどんな仕事をしていると思ったかの問に対する結果と、どこの栄養士を知っていたかをクロス集計したものである。予想した業務内容を全体でみると、病院等で献立・食事作り、学校・会社で食事作り、病院で栄養指導が56～75％と回答率が高く、過半数の入学者が知っていた業務であった。栄養士業務のうち、栄養指導と調理指導は法的にも定義づけられているが、実在の栄養士承知[19)20)]の対象が学校・病院に集中していた結果と一致し、それから得た知識と推察できる。

一方、スポーツ選手の食事管理が40～45％と、他の業務より高回答率なのは予想外の結果である。スポーツ栄養管理に携わっている

表4　知っていた栄養士と予想業務内容の認知度　(％)

	全体		学校		病院		福祉施設		事業所		保健所		市町村		養成施設		その他	
	栄養士	管理栄養士	栄養士	管理栄養士	栄養士	管理栄養士	栄養士	管理栄養士	栄養士	管理栄養士	栄養士	管理栄養士	栄養士	管理栄養士	栄養士	管理栄養士	栄養士	管理栄養士
	n=223	n=142	n=137	n=84	n=121	n=83	n=33	n=14	n=25	n=11	n=21	n=19	n=10	n=9	n=3	n=8	n=9	n=5
病院等で献立・食事作りをしている	69.2	74.8	68.7	68.9	79.5	80.5	83.9	83.3	68.0	90.0	90.5	82.4	100.0	75.0	66.7	100.0	62.5	60.0
小・中学校、会社等で食事を作っている	60.4	55.6	67.2	64.9	52.1	54.5	61.3	66.7	60.0	70.0	71.4	52.9	60.0	75.0	66.7	100.0	87.5	40.0
病院等で患者向けに栄養指導をしている	57.2	56.3	54.2	47.3	69.2	70.1	74.2	83.3	72.0	60.0	71.4	70.6	90.0	87.5	66.7	50.0	75.0	40.0
スポーツ選手の食事管理をしている	44.8	39.3	47.3	43.2	53.8	40.3	51.6	50.0	60.0	70.0	66.7	41.2	70.0	75.0	100.0	75.0	75.0	80.0
食品、食物に関する仕事をしている	39.1	38.1	38.9	31.1	36.8	40.3	32.3	41.7	40.0	50.0	47.6	41.2	60.0	50.0	33.3	75.0	37.5	80.0
栄養教育・栄養改善を行っている	33.6	31.5	41.2	29.7	38.5	35.0	29.0	75.0	40.0	40.0	33.3	35.3	60.0	37.5	33.3	50.0	50.0	40.0
保健所・市町村等で健康管理、栄養相談を行っている	28.9	24.8	27.5	20.3	34.2	23.4	35.5	33.3	44.0	50.0	61.9	41.2	90.0	50.0	－	25.0	37.5	40.0
テレビ等、マスコミで栄養の話をする	17.9	23.7	22.9	24.3	23.1	31.2	25.8	50.0	24.0	40.0	28.6	35.3	20.0	37.5	33.3	50.0	25.0	20.0
在宅の高齢者、病人に食事を提供している	15.4	11.9	9.9	10.8	14.5	11.7	6.5	50.0	16.0	30.0	14.3	5.9	20.0	12.5	－	－	50.0	－
国民の健康づくり指導を行っている	7.7	6.3	7.6	8.1	9.4	5.2	3.2	25.0	8.0	20.0	4.8	11.8	20.0	12.5	－	25.0	12.5	－

複数回答，％＝nに対する比

栄養士は実数としては過少にすぎず、それに反してこれだけの認知度は、最近Jリーグやプロ野球球団の栄養士がテレビ等に出演する機会が見られ、マスコミによる広報力の大きさではないかと思われる。

両課程間で比較すると、病院等で献立・食事作りをしている、マスコミで栄養の話をするのみ管理栄養士の方が高いが、他はすべて栄養士の回答率の方が高い。実在の栄養士承知の回答が栄養士の方が高率であった結果と一致し、それによる影響と推察できる。

入学前に知っていた栄養士の職域の関係でみると、市町村の栄養士を知っていた対象は幅広く栄養士業務をとらえているが、他施設の場合はその幅が狭い。両課程間で大きな違いは見られなかった。

以上の結果から、入学時の栄養士業務に関する知識は、出会った栄養士を通して得ている確立が高いことがわかった。またその機会は必ずしも多くなく、狭い範囲の見方であると解釈できる。入学後の学生から、栄養士はこんなことまでやるのかという感想がでてくる原因と推察する。

5．栄養士として就職の意志

表5は、入学時に卒業後の栄養士への就職をどう考えたかと就職動向の結果をクロス集計したものである。栄養士で勤めたいと思っていたのは両課程とも約55%、わからないと答えたいわゆる考慮中を含めると約85%が、栄養士での就職を視野に入れていたことになる。課程別にみると、栄養士で勤めたいと思ったのは0.4ポイント、栄養士で勤めたいと思わなかったが1.7ポイント栄養士課程が高く、栄養士として勤めるかはわからなかったが3.1ポイント管理栄養士課程の方が高かったが、総体的に大差はなかった。

これを就職動向の結果とクロスさせてみると、栄養士での内定率は、入学時に栄養士として勤めたいと思っていたグループが約70～80%と最も高く、栄養士として勤めるかわからないとはっきりしていなかったグループは20～30%と低い。入学時の意志が卒業時の就職につながっていることがわかった。

表5　入学時の栄養士での就職希望と卒業時の就職動向　(%)

入学時の就職希望	卒業時の就職動向																	
	全体		栄養士として内定をもらった		栄養士としての仕事を現在探している		栄養士以外で、栄養の知識をいかせる職場に内定をもらった		栄養士以外で、栄養の知識をいかせる職場を探している		他の職種に内定をもらった		他の職種を現在探している		進学を考えている		就職、進学をしない	
	栄養士 n=401	管理栄養士 n=267	栄養士 n=43	管理栄養士 n=44	栄養士 n=78	管理栄養士 n=57	栄養士 n=40	管理栄養士 n=18	栄養士 n=46	管理栄養士 n=17	栄養士 n=87	管理栄養士 n=35	栄養士 n=86	管理栄養士 n=29	栄養士 n=30	管理栄養士 n=15	栄養士 n=22	管理栄養士 n=12
栄養士で勤めたいと思った	55.1	54.7	78.0	67.5	88.5	71.2	63.2	60.0	50.0	12.5	40.5	38.7	38.1	18.5	57.1	42.9	28.6	25.0
栄養士として勤めるかは、わからなかった	28.4	31.5	19.5	27.5	9.0	26.9	28.9	26.7	40.9	75.0	35.7	38.7	33.3	55.6	32.1	21.4	33.3	41.7
栄養士として勤めたいと思わなかった	13.7	12.0	2.4	5.0	2.6	1.9	7.9	13.3	6.8	12.5	21.4	16.1	23.8	25.9	7.1	21.4	28.6	25.0
就職しないと考えていた	2.7	1.9	—	—	—	—	—	—	2.3	—	2.4	6.5	4.8	—	3.6	14.3	9.5	8.3

%＝nに対する比

栄養士での就職活動は、他の一般職と比較して求人数も少なく、最近の社会経済の状況からさらに困難性が伴う。その状況の中で栄養士の就職率をあげるには、強い意志で就職活動に努力する必要がある。入学時に栄養士への就職の意志をしっかり持った学生を得ることも重要であることが確認できた。

課程別にみると、入学時から栄養士で就職を決めていたグループの栄養士での内定率は、栄養士課程の方が10.5ポイント高く、はっきり決めていなかったグループでの内定率は管理栄養士課程の方が8ポイント高い。2年制では入学時の意志が卒業時の結果に結びつく確率が高いが、4年制は入学後考えて意志を決定する時間的余裕があるからと推察する。

一方、入学時から栄養士になりたいと考えていたグループは、卒業時に進学を希望している率も他より高率である。入学時に目的意識を持っていたことが、さらに次への勉学意欲につながったのではないかと考える。

表6　入学時の就学希望期間と卒業時の就職動向　(%)

入学時の就業希望期間	卒業時の就職動向																	
	全体		栄養士として内定をもらった		栄養士としての仕事を現在探している		栄養士以外で、栄養の知識をいかせる職場に内定をもらった		栄養士以外で、栄養の知識をいかせる職場を探している		他の職種に内定をもらった		他の職種を現在探している		進学を考えている		就職、進学をしない	
	栄養士 n=330	管理栄養士 n=229	栄養士 n=43	管理栄養士 n=44	栄養士 n=78	管理栄養士 n=57	栄養士 n=40	管理栄養士 n=18	栄養士 n=46	管理栄養士 n=17	栄養士 n=87	管理栄養士 n=35	栄養士 n=86	管理栄養士 n=29	栄養士 n=30	管理栄養士 n=15	栄養士 n=22	管理栄養士 n=12
どのくらいかわからないが一度は勤めてみたい	37.6	29.7	30.8	18.4	28.9	33.3	41.2	30.8	45.0	35.7	41.9	37.5	39.0	45.0	32.0	33.3	46.2	50.0
どのくらいかわからないが結婚するまでは勤めたい	14.5	13.1	10.3	13.2	11.8	11.8	17.6	7.7	7.5	14.3	21.0	20.8	11.9	20.0	16.0	22.2	23.1	12.5
できるだけ長く勤めたい	26.4	33.6	25.6	42.1	30.3	31.4	23.5	30.8	32.5	50.0	21.0	33.3	32.2	30.0	32.0	11.1	15.4	25.0
一生の仕事としたい	23.0	24.9	35.9	26.3	30.3	27.5	17.6	30.8	15.0	—	16.1	8.3	22.0	5.0	24.0	33.3	15.4	12.5

%＝nに対する比

表7　栄養士に対する卒業時の職業感　(%)

	栄養士 n=404	管理栄養士 n=287
今後は今以上に必要とされる職業だと思う	39.1	55.7
非常に大変で苦労の多い職業だと思う	28.5	20.6
社会的にぜひ必要な職業だと思う	20.8	18.1
社会的に十分認められていない職業だと思う	9.9	20.6
華やかさのない職業だと思う	8.9	7.0
大変生きがいを感じる職業だと思う	8.4	9.4
あまり将来性がない職業だと思う	1.0	1.0
その他	0.7	0.7

%＝nに対する比

6．就職希望期間

表6は、入学時に考えていた就業希望期間と就職動向の結果をクロス集計したものである。両課程を比較すると、栄養士で一度は勤めてみたいが7.9、結婚までは勤めたいが1.4ポイント栄養士課程の方が高いが、ライフワークとして考えているのは1.9ポイント、できるだけ長く勤めたいは7.2ポイント管理栄養士課程の方が高かった。栄養士課程の学生は、まず資格を生かす職業につくが、長期に勤めるかはその後考えるというより現実的にとらえ、管理栄養士課程の学生は、将来を長期的に考える学生がやや多いのではないかと推察する。

就職動向の結果と結び付けてみると、ライフワークとして考えていたグループは、栄養士及びその知識を生かせる職場への内定率が53.5、57.1%と両課程で大差がない。できるだけ長く勤めたいと考えていたグループは、同回答率が管理栄養士課程の方が72.9%と高く、一度は勤めてみたいと考えていたグループは、栄養士課程が72.0%と高い結果であった。したがって、入学時に考えている就業期間の長短は、就職動向の結果には関連していないことが確認できた。

2） 卒業時の意識

1．栄養士に対する職業観

本項目からは、栄養士課程で2年間、管理栄養士課程で4年間養成後の回答である。栄養士に関する知識を十分得ずに入学した学生が約半数いたが、卒業時の段階で、栄養士に対してどんな職業観を持ったかの集計結果を表7に示した。社会的にぜひ必要な職業（20.8、18.1%）、生きがいを感じる職業（8.4、9.4%）と自信が持てる回答は、両課程とも合わせて約30%とほぼ同率である。しかし、大変苦労が多いが7.9ポイント栄養士課程が高く、今後は必要とされる職業、いわゆる現在より将来に期待をかけるが16.6、社会的に認められないが10.7ポイント管理栄養士課程の回答率が高い。入学時に70～80%の学生が栄養士の資格取得を目的としていたのは、栄養士という職業に対してある程度の期待感を持っていたものと思われる。しかし、卒業時になお期待感を持てるのは約35%と格差の大きいことが確認できた。これは、栄養士に対する知識をあまり持たずに入学している人が約半数に及ぶ点、養成中に得る知識や校外実習等で現実を知るということに起因しているのではないかと推察する。前回の短大生のみの調査結果でも同率であり、栄養士課程ゆえと思ったが、今回の調査を重ね養成期間は無関係であることがわかった。

2．就職動向の結果

表8は、就職活動した結果と入学時の志望理由とをクロス集計した結果である。全体でみると、栄養士として内定（10.4、19.0%）は8.6ポイント管理栄養士課程が高く、栄養の知識を生かせる職場への内定は1.9ポイント栄養士課程が高い。栄養士にその知識を生かした職業も合わせた内定率は栄養士課程20.1%、管理栄養士課程26.8%である。内定が低率なのは、経済状況の厳しさから求人数の少ないこともあるが、この調査が1月実施だったため最終の結果でないことにもよる。この時点で活動中なのをその意志ありとして含めると、栄養士・管理栄養士課程別で、栄養士が29.3・43.6%、栄養の知識生かせる職業が20.9・15.1%、他の職種が42.0・27.6%、進学が7.3・6.5%である。全国の栄養士養成施設校卒業生の平成10年度栄養士業務就職率[18]は、栄養士課程28.2%、管理栄養士課程44.6%である。今回の調査結果は、活動中も含めると全国平均の数値とほぼ同率であった。

入学時の志望理由との関係でみると、栄養

表8　就職動向の結果と志望理由　(%)

就職動向の結果	志望理由											
	全体		栄養士の資格を取るため		将来、管理栄養士になりたいから		将来の仕事に役立つと思ったから		将来の生活に役立つと思ったから		健康と栄養について興味があったから	
	栄養士 n=412	管理栄養士 n=232	栄養士 n=343	管理栄養士 n=206	栄養士 n=113	管理栄養士 n=138	栄養士 n=149	管理栄養士 n=131	栄養士 n=208	管理栄養士 n=126	栄養士 n=189	管理栄養士 n=121
栄養士として内定をもらった	10.4	19.0	10.3	18.1	23.0	31.3	18.1	25.3	9.7	19.4	10.1	17.4
栄養士としての仕事を現在探している	18.9	24.6	20.8	25.3	23.9	35.4	26.8	33.3	20.9	27.6	14.4	27.2
栄養士以外で、栄養の知識をいかせる職場に内定をもらった	9.7	7.8	8.8	9.6	8.8	8.3	8.1	8.1	8.3	9.2	14.4	6.5
栄養士以外で、栄養の知識をいかせる職場を探している	11.2	7.3	11.4	5.4	7.1	6.3	10.1	8.1	12.6	5.1	14.9	7.6
他の職種に内定をもらった	21.1	15.1	23.2	17.5	18.6	6.3	12.8	10.1	20.9	17.3	22.3	18.5
他の職種を現在探している	20.9	12.5	19.4	12.0	12.4	6.3	16.8	8.1	22.3	12.2	16.5	16.3
進学を考えている	7.3	6.5	6.7	8.4	8.0	3.1	10.1	5.1	6.8	4.1	8.0	4.3
就職、進学をしない	5.3	5.2	4.1	5.4	5.3	2.1	3.4	1.0	5.8	3.1	6.4	3.3
その他	2.2	6.5	2.6	3.0	1.8	8.3	1.3	6.1	1.0	4.1	1.1	6.5

就職動向の結果	志望理由									
	食物全般にわたって勉強したいから		調理が好きだから		ｽﾎﾟｰﾂと栄養について興味があったから		家族や先生などから進められたから		受験科目が受けやすかったから	
	栄養士 n=140	管理栄養士 n=96	栄養士 n=173	管理栄養士 n=90	栄養士 n=65	管理栄養士 n=35	栄養士 n=45	管理栄養士 n=46	栄養士 n=36	管理栄養士 n=25
栄養士として内定をもらった	10.9	22.2	11.1	17.6	6.2	12.1	11.1	18.2	2.8	30.0
栄養士としての仕事を現在探している	18.1	25.0	18.1	23.0	18.5	24.2	17.8	36.4	22.2	35.0
栄養士以外で、栄養の知識をいかせる職場に内定をもらった	13.0	11.1	9.4	6.8	12.3	15.2	2.2	15.2	—	5.0
栄養士以外で、栄養の知識をいかせる職場を探している	18.1	9.7	18.7	6.8	9.2	—	11.1	18.2	8.3	10.0
他の職種に内定をもらった	17.4	13.9	18.1	18.9	26.2	18.2	22.2	9.1	27.8	—
他の職種を現在探している	18.1	12.5	17.5	6.8	20.0	12.1	33.3	6.1	25.0	5.0
進学を考えている	8.7	6.9	8.2	8.1	9.2	9.1	4.4	6.1	8.3	10.0
就職、進学をしない	5.1	4.2	6.4	5.4	—	6.1	4.4	3.0	8.3	5.0
その他	0.7	1.4	1.8	8.1	1.5	6.1	—	3.0	—	—

%＝nに対する比

士への内定率は、入学時に将来管理栄養士になりたいと思ったグループが両課程で各23.0、31.3%と最も高く、次いで将来の仕事に役立つと思ったグループが18.1、25.3%であった。入学時から上位資格まで取得したい、就職に役立つからという卒業後の就職に結びつけた志望動機を持ち、目的意識をはっきりさせた積極組みがよい結果に結びついていることがわかった。前回調査による短大生対象の同結果は、2年間の短い養成期間のため変わり得る猶予がないためと推察したが、今回の結果を重ねることにより、養成期間の長短に関係ないことが確認できた。就職活動開始時に栄養士の資格を生かした職種を選ぶのではなく、実際には入学時の考えが基になって決定まで結びついていることがわかった。栄養士での就職率を上げるには、入学時から職業意識をしっかり持った学生を得る必要があると考える。

3．栄養士就職への意志変化の有無

表9は、栄養士で就職するか入学時と卒業時の意志変化の有無について集計したものである。栄養士での就職希望は、入学時と比較して卒業時に栄養士課程は20%増え、管理栄養士課程はほぼ同率である。栄養士課程は判断しかねていたグループ（28%）のうち20%が栄養士希望へ移動し、管理栄養士課程の同グループ32%は栄養士になりたくないへ移動している。一方、入学時に栄養士を希望しなかった栄養士課程の14%は希望するへ移動し、管理栄養士課程の同12%はそのまま変更していない。両課程において、変更内容が大きく異なっている。今回の対象は、養成期間が2年と4年間という相違があるが、養成期間の短い方が栄養士就職希望が高まり、長い方が低くなる結果はどこに原因があるのか、さらに調査の必要性を感じた。

表9　栄養士就職への意志変化　(%)

	栄養士	管理栄養士
入学のとき栄養士として就職したかったし、現在もしたい	75.0	52.2
入学のとき栄養士として就職したかったが、現在はしたくない	3.6	34.8
入学のとき栄養士として就職したくなかったが、現在はしたい	17.9	0.0
入学のとき栄養士として就職したくなかったが、現在もしたくない	3.6	13.0

%＝nに対する比

表10 栄養士就職の意志変化の時期　(%)

	栄養士 n=287	管理栄養士 n=266
1年前期	2.8	3.4
1年後期	38.0	39.8
2年前期	31.7	18.0
2年後期	27.5	13.2
3年前期		9.4
3年後期		3.4
4年前期		5.3
4年後期		7.5

%＝nに対する比

4．栄養士就職への意志変化の時期

表10は、栄養士での就職の意志が変化した時期の集計結果である。最も高率なのが両課程とも１年後期（38.0、39.8％）、以下2年前期（31.7、18.0％）、２年後期（27.5、13.2％）の順である。両課程は養成期間が4期と8期の大差があるにもかかわらず、同時期が同位なのは予想外の結果であった。しかし、割合の変化は両課程で大きく異なっている。栄養士課程は1年後期から２年後期にかけて30～40％ずつ変化するが、管理栄養士課程は１年後期で40％、２年前・後期15～20％、その後5～10％と広がっている。

変化の結果を現実の状況と合わせてみると、栄養士課程は、入学時に実在の栄養士を知らない者が46.3％いたが、入学後栄養士に関する知識が入り始め、１年後期から専門科目の増加によってその知識が多くなり、さらに2年前期で校外実習を経験することによって情報がピークに達する。その間、成績がでて自分の適不適を考えるようになり、就職活動を通して現実のものとして判断すると思われる。一方、管理栄養士課程は、多くが校外実習・就職活動を３～４年次で行っているが、それ以前に変更しているものが多い結果は予想外であり、この原因判明は今後の課題としたい。

今回の結果で、入学時点では栄養士に関する知識が十分でなく予想の部分も多かったが、入学後に現実を知り、その格差が大であると受けとれる。一般職と異なり、在学中に職場での経験をして未完成な時期に現実が見えすぎてしまい、自信がないまま職を選択せざるを得ない結果、逃避につながってしまうこともあろう。理想と現実の格差が大きく、就職への意志変更につながる点は、今後適格者を得るうえで十分検討すべきことと考える。

5．栄養士で就職しない理由

表11は、栄養士で就職しない者の理由を集計した結果である。勉強不足で自信がないが両課程とも最も多く、45.7、42.3％とほぼ同率であった。両課程の回答率の違いを見ると、就職先がないが8.2ポイント栄養士課程の方が高いが、新しくやりたい事ができた12.9、自分に向かない8.4、仕事内容が考えと違っていたが3.1ポイント管理栄養士課程の方が高かった。栄養士課程は学生自身以外の理由、また管理栄養士課程は学生側の理由による例が多いという特徴がつかめた。

自信がない点については、いくつかの理由が考えられる。専門職は在学中の知識だけでは十分といえず、職場へ入ってからの経験を通して知識や技術が確立し、自信につながるという特徴がある。また、栄養士に求められ

表11　栄養士で就職しない理由　（％）

	栄養士 n=221	管理栄養士 n=104
勉強不足で自信がないので	45.7	42.3
就職先がない	21.7	13.5
新しくやりたい事が出てきたから	21.7	34.6
仕事内容が自分の考えていたのと違っていたから	19.0	22.1
責任ある仕事であり、自分はむかないと思ったから	17.6	26.0
体力に自信がないので	5.4	6.7
その他	9.5	9.6

％＝ｎに対する比

る社会的ニーズが最近高度化・専門化し、養成期間が不足であるといわれてもいる。先の理由は、両課程に該当すると考える。2番目の理由は、時間的余裕のない2年制の栄養士課程のみ当てはまると考えていたが、この調査で養成期間が4年であっても自信が持てないのは同じであることがわかった。したがって、自信の持てないのは1番目の理由の方が関係大であると推察する。

カリキュラム編成における過去の推移を振り返ると、限られた単位数の中に、一率に科目追加の一途をたどってきた。広がりつつある栄養士の職域に対し、誰もがどこへも適応力あるようにとの考えであろうが、学生の目からは焦点が薄れ消化不良の感があり、自信が持てない結果に結びついているとも推察する。また、学生の特質も変わってきている。出口の目標を自分で探させるのではなく、見える目標を自分で選びそれに向かって歩ませる方が、現在の学生の気質からは教育成果が上がると思われる。現在、栄養士法の改正に向けて、カリキュラム再検討の時期である。今後は、2年間で何をどこまで学ぶか、基礎力をしっかり身につけることを目的とし、次のステップとして管理能力をつける管理栄養士としての科目、さらに職域別に強化させる科目をと、段階別に目標別に組み立てる形で編成しなおす必要があるのではないだろうか。

要　約

栄養士の社会的役割の変化に伴って、養成のあり方が問われている。それを検討する際、養成を受ける側の実情把握をして対応する必要ありと考え、制度の違う2年制の栄養士課程と4年制の管理栄養士課程生の入学時と卒業時における意識調査を実施した。

1）志望理由は、栄養士課程は、資格をとるため（82.7%）、調理が好き（41.7%）、将来の生活に役立つ（52.1%）の回答率が高く、現在得たい技術と生活に役立てようと現実的にとらえ、管理栄養士課程は、将来管理栄養士になりたい（47.6%）、将来の仕事に役立つ（45.2%）が高く、将来までの長い計画として考えている違いがある。

2）実在の栄養士を知っていたのは、栄養士課程が4.2ポイント高いが、栄養士課程46.1、管理栄養士課程50.3%が知らないまま入学している。

3）入学前に予想していた業務内容は、病院や他施設で献立・食事作り、栄養指導が両課程とも55.6～74.8%と高回答率であるが、他の業務は低率で狭い範囲の知識にとどまっている。

4）卒業時における栄養士への職業観は、社会的にぜひ必要、生きがいを感じる職業と自信につながる肯定感を持つものが両課程とも約30%、苦労が多いなど否定感を持つものが約40%である。

5）就職動向の結果は、現在進行中も含めると、栄養士・管理栄養士課程別で栄養士に内定が29.3・43.6%、栄養の知識が生かせる職業が20.9・15.1%である。栄養士での内定は、志望理由が管理栄養士になりたい、職に生かせるからと、入学時に卒業後の目標をはっきりさせていたグループが高率であった。

6）栄養士で就職しない理由は、勉強不足で自信がないが最も多く、栄養士課程47.7%、管理栄養士課程42.3%で大差はなかった。

本研究は、1999年度文教大学女子短期大学部共同研究費の助成を受けて実施したものである。

文　献

1）斎藤貴美子、井上節子：栄養士に関する

社会状況について（第１報）職場での実状調査、第45回日本栄養改善学会講演集 173（1998）
2）斎藤貴美子、井上節子：栄養士に関する社会的役割の変化について（第１報）職場での実状調査、本誌 42 91～103（1998）
3）厚生省保健医療局監修：栄養関係法規類集、健康保険法、1028－18－1 新日本法規出版
4）厚生省保健医療局監修：栄養関係法規類集、地域保健法 951（1997）新日本法規出版
5）厚生省保健医療局監修：栄養関係法規類集、老人保健法 910－15 新日本法規出版
6）斎藤貴美子、井上節子：栄養士に関する社会状況について（第２報）養成施設生の入学時と卒業時の意識調査、第46回日本栄養改善学会講演集 177（1999）
7）斎藤貴美子、井上節子：栄養士に関する社会的役割の変化について（第２報）養成施設生の入学時と卒業時の意識調査、本誌 43 57－66（1999）
8）厚生省保健医療局監修：栄養関係法規類集、栄養士法 452（1962）新日本法規出版
9）羽田、太田、広川、原、岡崎、鈴木：栄養士養成施設校の新入生の栄養士に関する意識調査について（その１）、第23回日本栄養改善学会講演集232－3（1976）
10）太田、羽田、原、岡崎、広川、鈴木：栄養士養成施設の卒業時における学生の就職状況と栄養士に関する考え方について、第24回日本栄養改善学会講演集234－5（1977）
11）太田、羽田、岡崎、広川、鈴木：栄養士養成施設生の卒業時における就業動向と職業に対する意識について、第25回日本栄養改善学会講演集 232－3（1978）
12）羽田、南、広川、岡崎、鈴木、太田、原：栄養士養成施設生の卒業時における就職動向と職業に対する意識について、第29回日本栄養改善学会講演集 265－7（1980）
13）吉野、鈴木、足立：管理栄養士養成施設における卒業前後の栄養士活動の現状とその意義 第34回日本栄養改善学会講演集 242－3（1985）
14）藤沢良知：管理栄養士制度の発展に向けて、栄養日本 41 197(1998)日本栄養士会
15）栄養士将来像検討特別委員会：21世紀における栄養士活動の課題、栄養日本 466－471（1997）日本栄養士会
16）総会資料-事業報告、全栄施協月報46436（1999）全国栄養士養成施設協会
17）平成11年度会員数（職域協議会別）、栄養日本43 380（2000）日本栄養士会
18）平成10年度管理栄養士・栄養士課程卒業生の就職実態調査の結果、全栄施協月報 470 14(1999) 全国栄養士養成施設協会
19）厚生省保健医療局監修：栄養関係法規類集、医療法 1028－18（1994）新日本法規出版
20）厚生省保健医療局監修：栄養関係法規類集、栄養改善法 33（1998）新日本法規出版